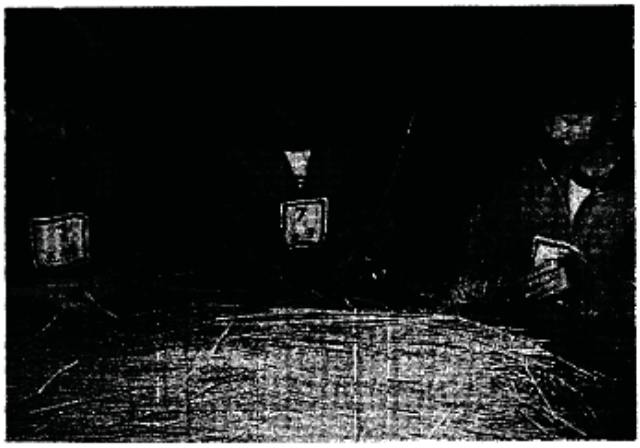
(4)　実践例＜３年生＞　　「身近な素材からの発想と造形」

表現素材に触れ，五感を通して素材の持つ特性を感じ取り，表現活動の中でそのよさを最大限に引き出し，生かすことは極めて重要なことである。素材から受ける情意的なもの（魅力・特性＝温かみ・柔軟さ・かおり等）は，豊かな心を育む源となり，また，それを生かす努力は，より質の高い表現を生み出すと考える。今回の選択美術では，学校の庭や近くの田畑，山林を歩き，素材を自分の手で集めることから学習を始めた。表現可能素材を捜し，発見するという主体的行動によって，表現への興味・関心・意欲はよりいっそう高められると考えた。用意された材料を使っての表現活動に慣れ切った生徒たちにとっては，この活動は実に新鮮であり大きな驚きであった。

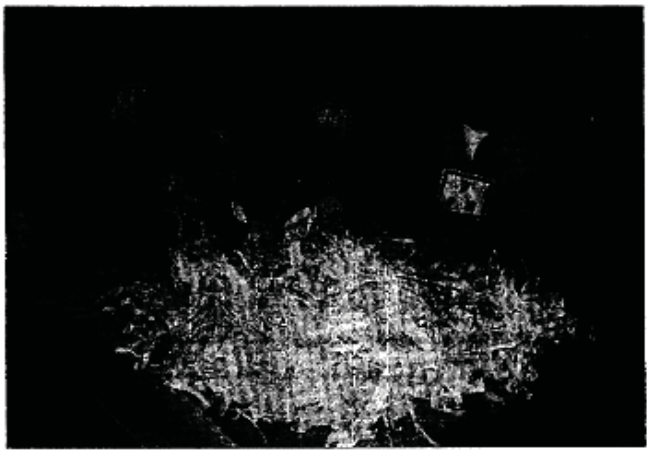
田畑に落ちているワラを縛り・曲げ，道端に落ちている小石を並べ・接着し，樹皮や木の葉を切り・貼ったり，小枝や蔦を絡ませ…

コラージュやオブジェなど表現と素材への柔軟な思考と発想の広がりを求めていきたい。



〔稲ワラを手にして〕

・曲げやすいけど形がつくりにくいかな。
・乾いていてごわごわするね。
・意外と温かいね。



〔カンナ屑を手にして〕

・自然のかおりがするね。
・字や絵が描けそうだね。
・木目が透けて見えてきれいだね。

〈学習指導案〉

1　題材名　　身近な素材からの発想と造形

2　題材設定の理由

生徒が主体的に表現活動をする基盤ともいうべき対象のよさや美しさなどを感じ取る能力（感性）を育てていくためには，手で触れたりする感覚を通した直接体験の積み重ねによる。

触れながら確かめたりする活動を通し，素材の持つ性質的なものを感じ取り，自然材料や人工材料から発想することによって主題を決め，構想し，主体的・個性的に主題を生き生きと表現することができると考える。

物の豊富な時代に育った現代の子どもたちには，「工夫し，発見する力」，「創造的表現力」に乏しい面を感じる。生徒一人一人は，かけがえのない可能性を持っている。この可能性は，他者から与えられた活動の中ではその広がりの多くを期待できないと考える。生徒自身がこれまでの体験や経験から身につけて来たことを駆使し，表現材料から，「発想」・「主題決定」・「構想」することを授業のなかに仕組むことによって，表現材料の可能性（広がり）に気づかせ，創る楽しさを味わわせ，造形的な創造活動能力の伸長を期待していきたい。

3　目　標

到達目標	評価の観点			
	関心・意欲・態度	発想・構想力	創造的技能	鑑賞の能力
種々の素材の造形性・表現の可能性に気付き，意欲的に収集し，表現することができる。	◎		○	
素材のよさを効果的に発揮させ，スケッチに基づき意図を表現することができる。		◎		○
素材や用具を意図的・効果的に活用する工夫をすることができる。	○		◎	
友達の作品や参考作品を観賞し，そのよさや美しさに気付き自己の制作に生かすことができる。	○	○		◎

4　指導計画（10時間取り扱い）

時	目　　標	生徒の活動	評価の視点
1	○　表現素材の可能性について興味関心を持ち，制作への意欲と関心を高める。	表現素材を集めよう 1　参考作品を通して制作への大まかな見通しをもつ。 2　学校の校庭や近辺を歩き，制作に可能な表現素材を発見する。 3　家に帰っての素材集めをする。	・表現素材をさがす中で素材を曲げたり，並べたりして素材利用の可能性について確かめることができたか。 ＜観察＞
2	○　表現素材の可能性について理解を深め簡単な構想を持つことができる。	曲げてみよう，切ってみよう・・・ 1　素材利用の可能性についてのメモづくりをする。 （曲げる，切る，丸める，つなぐ，並べる等）	・集めた素材とふれあう体験を通して素材のもつ造形の可能性についてまとめることができたか。 ＜発想・構想メモ，スケッチ＞
3 4	○　作品づくりの構想をまとめることができる。	制作の構想をまとめよう 1　発想・構想メモをもとに作品の構想を練る	・作品構想をスケッチにまとめることができたか。 ＜スケッチ＞
5 6 7 8 9	○　表現素材の素材のよさを生かして制作することができる。	素材のよさを引き出そう 1　立体・半立体・平面の3コースに分かれる 2　構想に基づき制作する。	・無理な加工をして素材のもつよさをこわしていないか。 ・素材のよさを生かせるように構想→制作→構想修正→制作のサイクルを繰り返しながら制作しているか。 ＜観察，学習カード＞
10	○　自他の作品のよさや表現素材の可能性について話し合うことができる。	作品と素材の美しさ発見 1　完成の喜びなどを話し合い，相互鑑賞をする。	・表現素材と表現の広がりを感じ取ることができたか ＜発表，学習カード＞ ・友達の作品のよさを見つけることができたか ＜発表＞

5　本時の指導

(1)　目　　標

○　表現することの楽しさを味わいながら，素材の持つよさを生かして制作することができる。

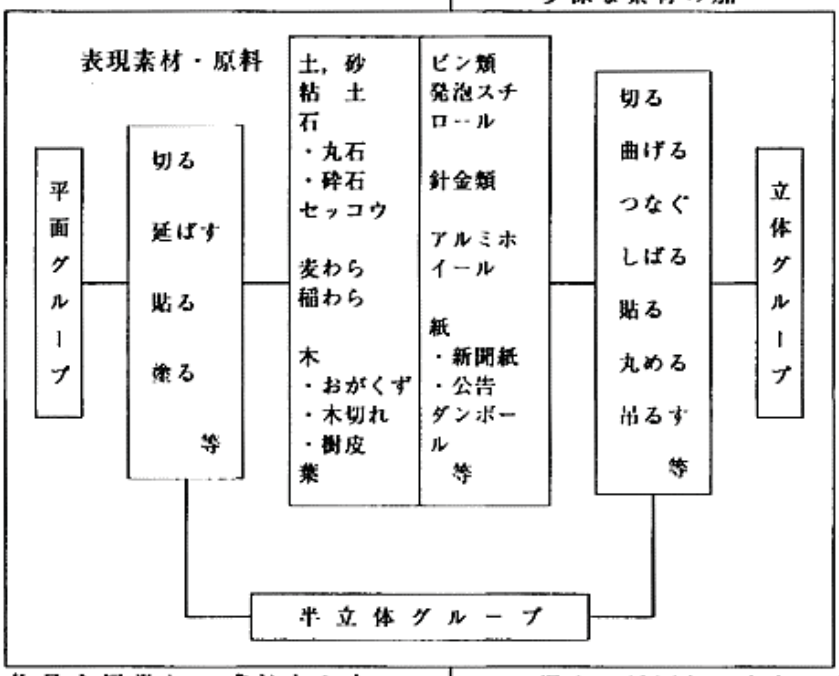
(2)　準備資料

○教師　参考作品，カッターナイフ，くぎ等

○生徒　収集した表現素材，はさみ，接着剤，スケッチブック等

(3)　展　　開

学習内容・活動	教師の働きかけ・指導の留意点
1　表現素材とのふれあい ・ふれる，においをかぐ　等 ・本時の学習のめあてを確認する。 2　作品について感想を述べ合う 3　生徒個々の本時の制作予定を確認する。 4　制作する。 ＜3つのグループ＞	・集めた表現素材に触れさせ，素材との出会いを大切にする。 (評)本時の活動に緊張感を持ってのぞめたか。〈観察〉 ・参考作品の提示をし，意欲を盛り上げる。 ・生徒個々のよさを大切に計画を立てさせ，主体的に取り組む態度を育てたい。 ・グループごとの活動を通して自己の考えを大切にしながらも友達から学ぶ大切さも気付かせていきたい。 ・多様な素材の加工や用具については，柔軟に対応したい。 ・構想（スケッチ）に基づいて制作を進めさせる。しかし，素材を加工していく過程の中でイメージ修正を自由にさせていきたい。 ・構想の修正には必ず簡単なスケッチを描かせていく。 (評)　素材のよさを見つけながら，制作できたか。 ＜観察＞
5　作品を鑑賞し，感じたこと，考えたことを発表し合う。 ・　素材と制作 ・　素材のよさ 6　本時の活動をふりかえる。 ・自己評価する。 ・次時の活動内容を確認する。 7　後片付けをする。	・温かい雰囲気のもと，感想を交換したい。友達の考えや工夫を学ばせたい。 (評)　作品を鑑賞して，自分の考えを持つことができたか。　＜発表＞ (評)　自分の学習態度を見つめられたか。 ＜自己評価カード＞



5　おわりに

(1)　全体計画と開設の手立てについて

週1時間の授業は行事等によって分断され，継続指導に支障が生じることが多い。そのために実践1・2で述べたように一題材の取扱い時間を短縮してみたが，その結果，生徒の取り組み意欲が持続できた。

2・3年生の題材に系統性を持たせることによって，より発展的な創造活動へと進めることができた。（石膏の取扱い技法）

どの教科を選択するかについては，個々の特性を生かし伸ばすことをねらいとする観点からも重要なことである。生徒たちは，授業を通して選択教科を決定する際の参考資料を得られる結果になった。また，文化祭での展示発表の場はそうした面からも単に作品展示にとどまらずに，制作過程の提示等にも一層の工夫が必要であろう。

(2)　自由制作の中での個別指導について

前期は共通課題制作，後期には自由制作として計画したが，後期には油絵，必修授業での既習内容や前期制作の発展等およそ10題材程度にもなった。また，個々の学習能力にも格差があり，一人一人の個性を伸ばすための具体的な手立てが必要である。そのためには生徒理解を図る個人の制作カルテや学習カード等を工夫改善し，効果的に生かすことが必須であろう。

(3)　素材と豊かな発想

自分の手で素材を集めたことにより表現活動への意欲化が図られたと感じる。素材を手にして，かおりを嗅いだりしながら積極的に取り組む生徒の姿が見えた。素材からの発想ということで，制作方向が一転二転することは当然である。柔軟な発想と造形をさせるためには，各制作段階におけるスケッチを十分に練り，足跡を残させながら制作させることが重要であろう。

(4)　評価について

年間指導計画表・評価基準表を基にして作成した評価補助簿の活用や自己評価表・学習カードなどからの総合的な評価を試みた。しかし，選択教科のねらいを考えたとき，生徒の個性の伸長や興味・関心を一層高めるための独自の観点を設ける必要を感じた。個々における学習開始前の題材に対する意識調査などが有効であろう。また，意欲や技能の成長度を評価に加味することも考慮する必要がある。毎時の授業を通した観察中心の評価に対して，授業の内容や生徒による確かな基準となる観点を明確にしていきたい。